

拝啓 今年も早や3月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。暖かい日が多くなり、春がすぐそこまでやって参りました。近所の公園では、こぶしが咲き、この「エンカウンター」が届くころには、桜も満開になっていることでしょう。

今回も、「小西芳之助先生金曜会語録」からの引用です。小西先生が55年も前に同志会の学生に語った言葉から、小西先生の教えが生き生きとよみがえる気がします。今回の引用の中に、同志会の創立者の阪井徳太郎先生に対する思い出の言葉がありますが、小西先生にとって、高円寺東教会と共に、同志会が非常に大切な伝道の場所であったことを感じます。同志会の金曜会には、石館守三先生と小西先生がそろって出席されていたはずですから、お二人の間に育った友情も、高円寺東教会と同志会の伝道の絆で強く結ばれていたといえます。

新渡戸・南原賞委員会の発行で、『新渡戸稲造・南原繁と現代の教養』という本が出来上がりました。関係者に送り、最後の懇親会を3月16日と18日に開きました。創設者の米窪博子さんが新潟県に退かれてからは、私が事務局の役を勤めましたが、一つの大きな事業が終了した思いで、感謝でありました。この仕事のおかげで、ずいぶん多くの方と知り合いになることが出来ました。

3月21日(土)、22日(日)と、丸山真男手帖の会代表の川口重雄さん主催の東日本大震災被災地旅行(おもに石巻市)に参加して来ました。妻から誘われ、私としては一大決心をして高円寺東集會を休んで参加しましたが、心に残る良い旅行でした。石巻市の海岸近くにある門脇小学校では、裏山の日向山に避難して、死亡者数人だったのに、北上川の下流近くにある大川小学校では、108人の生徒中74人の生徒と、10人もの先生が、亡くなりました。大川小学校の学校のすぐそばに山があり、山に逃げる判断を早くしておれば助かったのという思いがありましたが、現場に立って、説明を聴くと、海岸から相当奥に入った現場に、そんな大きな津波が来るとは、想像できなかつただろうということも納得でき、複雑な思いになりました。石巻周辺では、道路の整備や、がれきのかたづけ、被災家屋の取り壊しは、相当進んでおり、説明を聞かなければ、そんな大被害があった場所とは分からないほど片付いていました。しかし、あちこちにプレハブの長屋のような仮設住宅がみられました。私は、恥ずかしながら、今回が被災地に出向いた最初でしたが、行っているいろいろ説明を聴けて本当に良かったと思います。

長かった冬も終わり、いよいよ暖かい春となります。皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成27年3月23日

山口周三

エンカウターの読者各位